



火鳥・種拝所での祭典

# 宗 像

## 沖津宮現地大祭

大時化のため、大島・沖津宮遙拝所にて齋行

五月二十七日、年に一度一般の参拝者を沖ノ島に受け入れる沖津宮現地大祭だが、うねりを伴った浪高三尺に及ぶ大時化のため、平成十二年以来十年振りに大島の沖津宮遙拝所での沖津宮大祭齋行となった。

前日の二十六日、全国各地からの参拝者約二四〇名が大島の中津宮に参集、午後六時からの渡島安全祈願祭に参列され、翌日の無事渡島を祈念した。祭典後、高向宮司が現地大祭に際しての挨拶を行い、各班ごとに引率する担当神職からの説明、諸注意を受け一同解散、島内宿泊施設に分かれ静かに夜明けを待った。



遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮

### 7月祭事暦

- 毎月1・15日 **月次祭**  
午前10時～  
高宮祭  
第二宮・第三宮祭  
宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時～  
総社祭  
浦安舞奉奏(1日)  
豊栄舞奉奏(15日)
- 27日 午前9時～  
**第55回中津宮七夕揮毫会**  
於=筑前大島 中津宮
- 31日 午後5時～  
**夏越の大祓神事**  
大祓式 於=神門前  
引き結き 夏越祭 於=本殿

七割を超えているという。今日、我々が自由に、平和な社会で暮らせるのも、先の大戦で亡くなられた犠牲のうえにある事を忘れてはならない。最近、遺族会の研修で地域の慰霊碑巡拝を遺族の人たちに同行し、慰霊塔の前でこ奉仕させて頂く機会を得ることができた。祖国を思いながら家族を案じつつ戦場で倒れられた方に、改めて思いを馳せると同時に今日の平和の有難さを痛感した。事実、まだ御遺族の英霊の遺骨が家に帰ってなく、家の仏壇やお墓にも祀られてない家族が多いと聞いている。遺族の方にとって心の拠り所となるのは、御魂が祀られている靖国神社であり、地元にある戦没者追悼施設である慰霊塔なのである。最近、ニュースや新聞等で子供の虐待、いじめなど凶悪な事件が多い。戦後、なぜこのような日本になってしまったのか。その人にとって一つしかない大切な命を国のため、家族の為に尊い命を捧げた英霊に対し申し訳なく思う。戦場で亡くなった人たちはもちろんのこと、国の内外に於いて戦争で亡くなられた人の家族も遺族であり、広い意味で日本人全体が遺族と言っても過言ではない。再び悲惨な戦争を繰返さないよう、遺族を出さないために、先人たちが犠牲になって築き上げたこの国の平和を、子々孫々まで大切に守り伝えなければならぬ。(杉)

神具・装束・授与品

**井筒**

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉野院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567





遠か沖ノ島に向かい祝詞を奏上する高向宮司



時折雨も落ちてくる海上大時化の天候であったが、当初の予定通り午前七時に渡船「しおかぜ」に乗船し大島の港を出た。

大島の裏に達する頃には沖ノ島が目視出来るほど晴れ間が広がり視界も開けたが、強いうねりに高波の為船酔いされる方が続出、船長判断により渡島を断念し、大島を一周し大島港に帰港した。別の船に乗船予定の方々からも希望者を募り、さらにもう一度大

島を一周したが、船酔いされた方と沖ノ島を拝すことができた喜びに浸る方の二極化が印象的であった。

午前十時には沖津宮遙拝所で遙か先の沖ノ島を拝しながら沖津宮大祭を斎行。高向宮司が日本海海戦を顧みて国家・皇室の御安泰、参列者をはじめ国民の平穏を祈る祝詞を奏上した。

祭典後は中津宮下の照海殿で、沖・中両宮奉賛会、同翼賛会敬神婦人部の皆様により調理された刺身、煮魚、その煮汁でいただく

くソーメンに一同舌鼓を打ちながら、神人和楽の一時を過ごした。

全国からご参拝の皆様には渡島中止という残念な結果となった本年の沖津宮大祭であったが、人間の力ではどうすることもできない自然の摂理、かつて沖ノ島を行き来した古代の人々が遙か海上よりすがる思いで目にした島の姿、または「天気晴朗なれども浪高し」の天候であった明治三十八年日本海海戦当日にとそれぞれに思いを馳せて頂いたのではなからうか。

# 京都・清水寺 森清範貫主ら参拝

夏を思わせる陽気となった六月三日午後三時、鎮国寺の立部祐道住職の案内で、清水寺の森清範貫主ら京都仏教クラブの方々も参拝され、北九州を代表する当大社の神仏習合時代の姿に思いを馳せられた。

宗像三女神を本地仏として安置し当大社とも所縁深い鎮国寺だが、住職の立部祐道氏は京都・仁和寺の執行長兼御室派の宗務総長として、長年仏教界にご尽力されており、宗像の同寺は御子息の立部瑞真副住職が中心となって寺務を担ってこられた。しかし今年五月、仁和寺における役職の任期満了に伴い帰福することとなり、京都で交流のあった仏教クラブの方々のご要望から、一行を福岡にご案内される運びとなったとのこと。

当日は昨年末『今年の漢字「新」を揮毫された方としても知られる、清水寺の森貫主ら京都周辺の寺院の様々な宗派の僧侶の方々ら八名が来

社。高向宮司が本殿、神宝館等をご案内した。特に今上陛下が皇太子時代に参拝された際に御休息あそばされた儀式殿内の「御便殿」、神宝館内の阿弥陀経石に一同関心を寄せられていた。

一行は二日市温泉に泊まり、翌日太宰府天満宮、光明禅寺、観世音寺、戒壇院、都府楼跡、福岡市博物館などを見学され帰京されたとのこと。京都仏教クラブの皆様のご健勝をこころより御祈念申し上げます。



京都仏教クラブの皆様



平成22年度  
**第一回 氏子会総代総会**  
 新会長に置鮎玄二郎氏就任

五月二十四日午前十一時より清明殿で宗像大社氏子会総代総会が開催され、安部会長の任期満了に伴い置鮎玄二郎氏(福津市津屋崎)が新会長に就任された。

当日は本殿で正式参拝後、清明殿に移動、国歌斉唱、神宮並皇居遙拝、敬神生活の綱領を唱和し、氏子会安部照生会

長、高向宮司の挨拶の後議事に入った。

前年度の事業・決算報告、本年度の事業計画・予算案をはじめ、氏子会費取り纏め依頼、第十九回氏子会研修旅行、役員改選についてそれぞれ審議頂き全て承認された。

今年の氏子会旅行は七月五〜七日の日程で「平城遷都一



新会長の置鮎玄二郎氏



退任の挨拶をされる安部前会長



宮司より委嘱状を受ける役員の方々

三〇〇年祭と春日大社、榎原神宮」と奈良県を中心とした行程の旅で既に申し込みが多く寄せられている。

また三期九年の長きにわたり氏子会長をお務めいただいた安部照生氏をはじめ、六名が退任、三名が留任となり新役員が承認された。

新しい会長の置鮎玄二郎氏は昭和十年北九州市の御出身。高校卒業後、関西方面へ就職され四十二歳の時に帰福され津屋崎へ。定年退職され現在は津屋崎区区长会会長、津屋崎郷づくり協議会副会長、津屋崎小学校(コミュニティスクール)推進委員、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議委員等の要職をお務

めになり、地域の活性化・住みよい町づくりに広く活動されている。今後三年間、当大社の氏子会は置鮎氏の下、新体制で臨むこととなる。

長年労苦を賜りました安部前会長をはじめ、退任された役員の皆様には厚く御礼申し上げますとともに、今後のご健勝とご多幸を心より御祈念申し上げます。

東福岡地区氏子会総会

五月三十日には福津市の東福岡地区の氏子会総会が、同地区「老人憩いの家」で開催され、神職二名が出向し今年度より当大社氏子会評議員となられた五名の方々に委嘱状をお渡しした。



総会では前年度の決算報告、今年度の予算審議が行われ、続いて氏子会費と献米取り纏め等について話し合われた。

また長年東福岡地区の氏子



東福岡地区の総会

会長を務められた大嶋和敏氏が退任され、新たに占部豊實氏が就任されるなど役員改選もあわせて報告された。

同地区は他市・県からの居住者の多い団地を含んでいるが、敬神の念篤く昭和六十二年に氏子会を発足させ地域をあげて、神郡宗像の氏子としての誇りを有している。同地区の益々のご発展を心より御祈念申し上げます。



# 表参道トイレ改修工事 地鎮祭

三月の責任役員会で建設の承認を受け、年内の竣工を目指す表参道トイレの地鎮祭が六月一日、高向宮司、施行にあたる弘江組社長中野順氏、河上信行設計事務所代表の河上信行氏ら工事関係者参列のもと、建設工事の安全が祈念された。

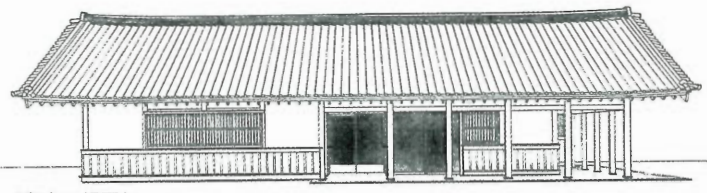


一三三、六二平方メートル、木造平屋作りで景観を損なわない様、純和風作りで、女子トイレは八基で従来の二倍の数にし、パウダーコーナーを設けて化粧等も行えるようにし、さらに多機能トイレも設置し様々な参拝者に対応出来る設計になっている。

また長期的なメンテナンスを考え配管は埋設ではなく空中配管にすることにより配管トラブルを最小限に抑えられるようにし、内装もボード材を多く使用し、極力各機器を交換しやすい仕様になっているのが特徴と言える。

また平素は問題ないが、露天が参道脇に多く出店する秋祭りや正月に大変混雑している第一鳥居く祈願殿裏小道までの表参道を、現在の五倍幅から約三倍の十五メートルまで拡張する工事も今後併せて行い、参拝者の混雑を軽減する計画である。

工事期間中はご参拝者の皆様に大変ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。尚、竣工予定は十二月二十日、進捗状況は今後も紙面でお伝えしてまいります。



「完成予想図」

# 氏子青年会総会

五月二十一日清明殿で宗像大社氏子青年会定例総会(会長 小林栄二氏)が開催された。

当日は会員・賛助会員約三十名出席のもと、戸波真也副会長の開会の辞により総会が開かれた。

神宮並皇居遙拝・国歌斉唱・敬神生活の綱領唱和を行い、矢原吉房



会長が議長を務めた。事務局より平成二十一年度活動報告並び決算報告、小林正勝監事より監査報告がなされ一同承認。引き続き平成二十二年予算並び活動計画・役員選出の件についても速やかに承認された。

で特別講演を頂いた。

欧米で云う紳士・淑女の条件(勇氣・教養・社会奉仕)を例に日本の現状と比較し、心を繋ぐ教育の重要性を説かれた。本会も平成十七年に神郡宗像の発展と、誇りある我が国の伝統文化を次世代へ伝えるという思いの下、設立より六年目となる。その実現の為に、神道勉強会等を含む研修会を増やす活動計画が立てられており、その活動の幅は着実に広がられている。



挨拶される小林会長



# 大島・鳥居修復補強工事

中津宮、沖津宮遙拝所、末社天満宮各所の鳥居を補強

五月十七〜二十五日に掛けて、中津宮の二ノ鳥居並び沖津宮遙拝所鳥居の修復補強、末社鳥居の解体工事が行われた。

中津宮の二ノ鳥居の建立年代は、篆刻が長年の風化により確認できず、確かな年代は不明だが、推定で江戸末期から明治初期と見られ、石材は津屋崎石が使用されている。

昨年十月一日の夜間に鳥居の石扁額が崩落した為、福岡



中津宮三ノ鳥居



天満宮・大蔵神社の鳥居



遙拝所の鳥居

より鳥居の両柱に亀裂が生じていた為、今回併せて修復補強工事の施工となった。

五月十七日、工事にあたる國松石材の職人は中津宮で安全祈願祭を執り

西敏明氏、沖西春子氏、福原護氏の奉納にて施工されました。心より御礼申し上げます。

行い作業に入った。先ず中津宮二ノ鳥居に足場を設置、重機にて端貫を

市の石工業者・國松石材(株)に調査を依頼したところ、老朽化が著しく特に鳥居中貫柱左右の端部分が前後に割目が入っており、いつ崩落してもおかしくない状態との報告を受け、又沖津宮遙拝所の鳥居も昭和六十三年四月建立(沖西芳雄・福原鶴夫・沖西彰・沖西治夫氏奉納)と年代は古い

一方、遙拝所は小高い丘に位置する為重機は入れられず、工事は主に手作業で行われた。先ず鳥居の両柱亀裂部分まで解体し、各柱の中に二本ずつステンレスボルトを入れ固定、最後に石材用接着剤にて補強を施した。

工事は最終点検を二十五日に行い、二十七日の沖津宮現地大祭前に無事終了した。尚、遙拝所鳥居の修復工事は、昭和六十三年に建立頂きました方々の御親族にあたられる沖

# 宗像みかんの新ブランド 姫神(ひめのかみ) 奉納奉告祭

五月二十一日、JA宗像が地域色豊かな農産物をと長年研究開発を行い、当大社の三女神から命名された宗像のオリジナルブランドみかん「姫神」の御奉納があり、関係者ら参列の下農事安全と隆昌が祈念された。

に漕ぎ着ける事が出来た神恩感謝とみかんの豊作・物産としての隆昌が祈念された。現時点ではゆうパックによるカタログ販売が中心ですが、今後市場を拡げ

神郡宗像の新たな特産品となるべく御祈念申し上げます。



お問い合わせ先  
JA宗像選果場  
(0940)  
62-0239

この「姫神」は宗像・福津市のJA宗像柑橘部会に所属する約六十名の農家が、十二〜六月の間生産にあたり、温州みかん、はれひめ、れいこう、はるみ、デコポン、なつみの各種より、糖度や外觀等の一定基準を満たしたものが「姫神」のブランド名を冠し販売される。



当日はJA宗像柑橘部会 部会長の的場義人氏、同選果場場長の綱脇正幸氏ら関係者が来社され、無事出荷



## 宗像大社奨学金 受給生便り

香椎工業高一年  
古賀 亮 (河東中出身)

宗像大社での一番の思い出は、毎年恒例の秋のお祭りです。

子供の頃は、両親に連れられてお参りし楽しかった事を思い出します。今年は友達と一緒に自転車でいきたいと思います。

次に、私の家族の事を話したいと思います。兄が一人と弟が一人、妹が二人の五人兄弟七人家族です。家の中は毎日ワイワイと声が絶えません。

兄を始め男三人は野球部に所属、妹二人のうち中学二年になる妹は小学生の頃から続けているバレーボールをし、それぞれスポーツに打ち込む毎日を送っています。一番下の妹はまだ保育園に通ってます。

父の仕事は電気工事です。何度か一諸に連れて行ってもらった事があります。仕事をしている姿は、家では見る事の出来ない姿ですので良い体験をさせてもらったと思っています。

そこで私も電気工事士になりたいと思い、香椎工業高校を受験する事に決めました。父のように免許をとり、一流の電気工事士になりたいと思います。その為に、三年間一生懸命勉強に励み、部活動も頑張り、有意義な高校生活を送りたいと思います。

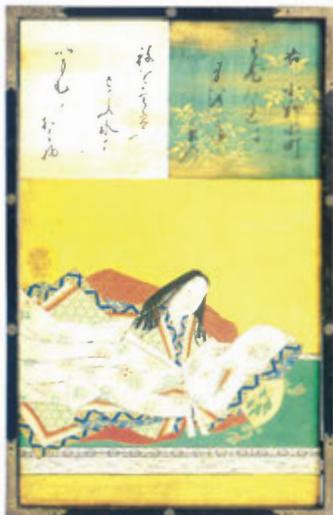
光陵高二年  
赤間 彩加 (津屋崎中出身)

私の宗像大社での思い出は、たくさんあります。津屋崎に住んでいるので、宗像大社にはよく来ています。毎年、正月には家族みなでお参りをして、一年の誓いは宗像大社でしています。お参りした後は、必ずおもちを買ったりして、とても楽しいお正月です。

秋のお祭りも毎年来ては、綿菓子や金魚すくい、くじなど家族みなで楽しんみ車で帰宅するのですが、その車の中でもワイワイ宗像大社での楽しかったことを、姉妹四人と、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんと話しています。

しかし、私の家では家族みなでそろろうということが、以前に比べて減ってきており残念で悲しいです。けど宗像大社に来る時は、必ず家族みなで行くようにしているので、とても嬉しいし幸せです。宗像大社は、私の家族をなんだか優しく見守ってくれていて、何かでひきつけてくれているような感じがしています。

今、両親はとても大変そうにしているので、少しでもその忙しさがなくなって、また家族みんなそろって私の幸せだと感じる時間を、この宗像大社で過ごせたらなあと思っています。



小野小町 延宝八年 黒田光之奉納

桃山時代から江戸時代にかけて、宗像大社へ奉納された三十六歌仙図扁額を特別公開します。和歌の趣、大和絵の美が融合する雅の世界。どうぞご堪能下さい。

### 特別公開

## 歌人たちの競演

宗像大社所蔵五組の三十六歌仙図扁額

- 会期 平成22年7月15日(木)~9月6日(月)
- 会場 宗像大社神宝館 3階展示室
- 拝観料 ◆大人..... 500円  
◆大学・高校生..... 300円  
◆中・小学生..... 200円  
※15名以上は1名に付 100円引

※展示替え作業のため下記日程で開館状況を変更します。どうぞご了承下さい。

- 会期前:平成22年7月14日(水)  
神宝館2階展示室のみ開館、拝観可。
- 会期後:平成22年9月7日(火)、8日(水)  
神宝館1階展示室のみ開館。拝観可。

◆七月三十一日(土) 午後五時  
◆大祓神事 引き続き 夏越祭齋行

恒例の夏越祭が近付いて参りました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日無事に過ごしていただくための祈りを込めた神事でございます。  
本年も左記の通り齋行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいますよう御案内申し上げます。



平成二十二年度 夏越の大祓神事のご案内



(続)

# 浜の奇物

247

いしいただし



昭和十六年(一九四一)十二月八日、軍全体が緊張感に包まれていた時、堺氏は愛知県・豊橋市で太平洋戦争を知る。ハワイ真珠湾攻撃である。攻撃の準備は極秘裡に進められ、十一月二十二日連合艦隊機動部隊は秘かに南千島(南千島)の単冠湾(単冠湾)に集結、二十六日同湾を出発、六隻の空母に三五〇機の攻撃機をのせ、戦艦、重巡、軽巡、駆逐艦、潜水艦が護衛、ハワイ諸島オアフ島に近づいていた。

山本五十六司令長官は、広島の戦艦「長門」の司令部より連合艦隊に「ニイタカヤマノボレ一〇八」の暗号を発信。ハワイ・オアフ島沖に到着した空母から、第一次攻撃隊一八三機が真珠湾内に停泊する米太平洋艦隊に攻撃を加えた。攻撃機から発信された「トラ・トラ・トラ(我、奇襲に成功せり)」の暗号で、第二次攻撃隊一六七

機も真珠湾に殺到した。攻撃は大本営より日本全土にラジオで伝えられ、奇襲攻撃の大戦果に日本中が沸きあがったが、豊橋の堺氏は「大変な事になった」と感じたという。

私は平成十年にハワイ・オアフ島の真珠湾を訪ねた。湾内には日本軍機から攻撃を受け沈没した戦艦「アリゾナ」のメモリアル(記念館)を見学した。艦と共に亡くなった人達は今もここに眠っている。そこから下の海面を見ていたら、重油が一つ二つと浮きあがって広がって行く。また湾内には退役した戦艦「ミズーリ」が係留されていた。戦争初期の沈んだままの戦艦と、日本降伏の調印が行われ、戦争を締めくくった艦を見て複雑な思いがした。



アリゾナメモリアルとミズーリ(ハワイ・オアフ島)

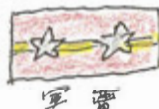
翌昭和十七年一月十日、堺氏の部隊は完全武装で広島県・宇品港を出港、

台湾・高雄に寄港後、南洋を目指した。三月一日蘭印(オランダ領インド、現インドネシア)ジャワ島に日本軍は三方から上陸を敢行し、バンドンに向かって進撃。オランダ軍は九日に無条件降伏、八日間で蘭印占領に成功した。堺氏は占領のジャワ軍政の仕事に追われていた。陸軍は戦線を拡大し東南アジア・太平洋諸島まで兵を進めていく。

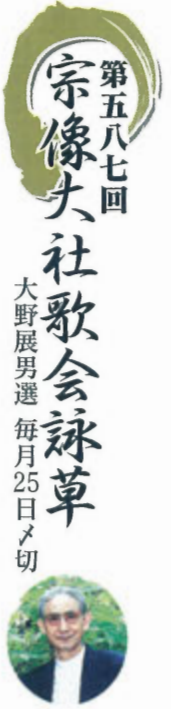
空機一千機、兵力十万人にのぼったが、日本海軍はこの海戦で空母四隻、重巡一、航空機三二二機、精鋭のパイロットを含む戦死三〇五七名を失なう大敗北であった。それと共に制海権も失ない以後の作戦に大きく影を落す。

一方海軍は同年六月、ハワイから北西約二千キロにあるミッドウェー諸島の海域で、ハワイで攻撃できなかったアメリカ空母を捕促し壊滅する作戦を行う。ミッドウェー海戦である。六月五日から二日間にあわたり行われ、山本五十六司令長官は旗艦「大和」に乗艦し作戦の指揮をとった。展開した戦力の総計は三五〇隻、航

この海戦では多くの若者が戦死し、澤地久枝は「蒼海よ眠れ」の中で戦死者の三〇五七人の一人ひとりを調査したが意外な数字が出ている。なんと最も多いのは二十一歳で五一九名、全体の十七割を占めている。さらに最年少者は十五歳が四名、十六歳十名、十七歳が五十九名、十八歳八二名、十九歳が二十三名であった。十五歳の少年水兵の死には胸が痛む。ところが堺氏も徐州会戦に十九歳で参戦している。







大野展男選 毎月25日メット

**評** 宗像市 田久 井上 光  
右肩の人工骨を気にしつつリハビリ終わり初夏を清しむ  
疾患のあとと不安を抱えながらのやすらぎ、この複雑な心境を表  
すには下句は「リハビリを終へ清しむ初夏を」の表現が好ましい。

**評** 北九州市 八幡西区 吉田ウト子  
鉄線は備前焼が似合ふと言ひるたる妣に供へむ初咲きの白  
渋くて古風な感じの備前焼と明るいクレマチ・スガが似合ふと  
された妣それを受け入れた作者、おのずと二人の人格が判る。

**評** 宗像市 田久 巻 桔梗  
神門の茅の輪の緑あざやけしにんじん雲の去りし大社に  
※にんじん雲はテーパーングクラフト。次々と積乱雲が発生する現象  
新しい表現に苦心する作者らしい一首。ただ神門、茅の輪、大社と  
やや小うるさく折角のにんじん雲の印象がうすれたのが残念。

**評** 北九州市 八幡西区 豊田 光子  
生き死にのことになる遺言書きわが残年のうちのいち日  
重い一首。ただ二句切れ三句切れとリズムが小刻みとな  
っているので二句は「こととなりたる」と連体形にしたい。

**評** 宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子  
久びさに逢いたる人の齢老いて昔の偉丈夫いずこに行きし  
若い時に心寄せた人だろうが、色気のある歌。しかし四句があれば一人  
の「は、わずらわしいので二句三句は「逢えば齢かたむきて」はいかが。

**評** 福津市 若木台 山崎 公俊  
筆太に大社と墨書されし筆列なしすむ春雨の中  
春季大祭の折の一首か、一二句に作者のたしかな目が感じられる。

**評** 宗像市 日の里 大和美由紀  
水色に塗られし道を歩み行くすいすい魚の気分になりて  
私も一度は歩んで見たい道。四句は「いつしか」の表現もある。

**評** 福津市 星ヶ丘 佐々木和彦  
水滴を振りこぼしつつ雨後の風杏の若葉をゆらしてゆけり  
出来上がった歌。この中から作者の個性をどう出す  
か、佐々木さんに与えられた課題であろう。

**評** 北九州市 戸畑区 田中ハツセ  
庭の花つぎつぎ咲きて季を告ぐる身の不自由を励ますごとく  
とり分け花は人のこころを和ませてくれる。三句三句を「季を告  
ぐ不自由な身を励ますごとく」と三句切れにし順直に述べたい。

**評** 宗像市 田野 森 甲子  
真向ふに海を見渡す丞福寺ぼたんの前でカメラにむかふ  
なごやかなひととき。四句は「ぼたんと共に」の表現もあろう。

**評** 福津市 中央 池浦千鶴子  
瓶の蓋あかねば夫にさし出して栓抜き頼む当然のこと  
以前、筆者は二人にて暮らせば老の手力男命(てぢかろ)のジャム  
の蓋開け」と詠ったが、これは妻の歌だが共感しきりである。

**評** 福岡市 南区柏原 加野シノブ  
春嵐し吹き納まりし白桃の花弁のゆくえ匂ひのこれど  
散った花びらを惜しむ優しい心。「春二番吹き納まりぬ白  
桃の花弁はいづこ匂ひのこれど」と二句切れで詠いたい。

**評** 福岡市 南区 井田有久衣  
襲いくる睡魔とたたかい眠らじと講話のさなか何時しか夢路  
誰しも経験のある場面。三句は反省と自嘲をこめて  
「あなあわれ」と直したい。

**評** 宗像市 土穴 山本 静子  
名に高き黒木の大藤六百年の首生ゆ根っこをしみみと見る  
黒木の大藤を詠い苔に目を付けたのは立派、ただ「六百  
年の」の「の」は除き、六百年と三句切れが正しい詠い方。

**評** 北九州市 八幡西区 遠藤 幸子  
時ならぬ寒さにまどはず柿若葉萌黄の艶の日ごと鮮らし  
今年の異常な季節の推移が素直に詠われている。

**評** うきは市 浮羽町 向 則正  
七十となりて視力も衰へ不便さますます不安に思ふ免許更新  
加齢することは寂しいことである。この一首「不便さますます」は  
大巾な字余りでリズムを乱しているのので除いて三句は「衰へ  
て」とし、四・五句を倒置すれば定型に納りリズムもよくなる。

**評** 選者詠  
貴方さまは登録されてをりません友の電話は冷めたくすげなし  
外に出ること無くなりためためる五百円硬貨ふえること無し  
お隣は越してゆきたり今世には佐藤さんちの灯見ることは無し



宗像市 平井 占部 詩子  
散り際の桜へ夕陽沈みかね  
いちにちの寧ろざ子にるて春灯

**編集後記** 福岡県が県  
動物植物保全のため、平成十三年  
に発行した「福岡県の希少な野  
生生物」レッドデータブック  
二〇〇一〜その改訂版の次  
年度発行を目指し調査が開始  
され、六月二〜五日にかけて沖  
ノ島でも調査が行われました  
▼植物、昆虫、鳥類、哺乳類な  
ど各分野の専門家十三人が、沖  
津宮周辺だけでなく、道なき島  
内を隈無く調査し大きな成果  
を上げたようです(詳細は次号  
より「沖ノ島の希少な生き物た  
ち」として連載予定)▼「沖ノ島  
と関連遺産群」として世界遺産  
登録運動の中心的存在の沖  
ノ島、その特異な歴史や文化が  
注目される一方、一度も岸の入  
っていない島の原生林は「沖ノ  
島原始林」として大正十五年天  
然記念物に指定されています  
▼前回の調査から時間も経過  
し、島の生態も変わってきてい  
るようですので、唯一沖ノ島  
に勤務する者の一員として、島  
内の希少な生物の把握はもとよ  
り、それら生物のおかれています  
現状についても関心を寄せて  
います。その沖ノ島に数日後か  
ら勤務してまいります。(塚)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 葦津幹之  
編集人 大塚宗延  
制作 セネラルアサヒ  
印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円